

平成25年 2月19日

校務改善をどのように進めるか
～本校における校長の役割を振り返る～

国立市立国立第五小学校
校長 堀越裕之

◎ はじめに

- ・ 国立というところ
- ・ 授業改善による学校改善
- ・ 新しい血（新採・初異動）の導入
→必要性があったということと、できる素地があった。
- ・ 理科・生活科教育の研究…「くにごメソッド」の確立
→都小理・全小理・市研究奨励校

1, ビジョンの提示

* 基本的な考え方

→「変えません！」

…経営理念、経営計画の再確認

* 見直しの視点

→授業時間以外の時間の評価

→教員側の努力の洗い出し

…教務分担制・伝言板・PCの活用

*モチベーションの高揚

→トップ・ダウン（問題提起）とボトム・アップ（解決策提案）

…課題の指摘と「これならできる」解決策

→「やってみよう！」

…一週間のテスト期間 やってみる勇気

2, 校務改善第一弾～OJTシステム構築のために～

* 生活時程の見直し

→放課後の時間確保

* 職員朝会から朝清掃導入へ

→伝言板の活用

→清掃の6年間を見通した指導課程の作成

…ゴミを出さない子、自ら清掃できる子の育成

* 全校朝会、集会一回制

- 全校朝会は隔週の水曜日…集会等との共存
- *一人一実践からゼミ形式へ
 - 個人からグループへ
 - …若手を育てる・中堅は提案を・リーダーはリーダーシップを
 - 年次研協議会30分・一人一実践協議会15分
 - …視点の明確化・模擬授業形式・PC活用
- *主任教諭等のリーダーシップの活用
 - ゼミ、グループの進行
- *主幹教諭のリーダーシップの活用
 - OJTの進行管理・初任者の学習指導力の指導
- *現行の取り組みの評価と再構築
 - 「すべてがOJT」（※別紙参照）
 - …今、実際にやっていることを一覧に

3. OJTへの評価

- *価値付け
 - 学習指導力
 - …個とグループへの評価
 - 生活指導力
 - …児童の変容と組織への評価
 - 組織貢献力
 - …分掌各担当とリーダーへの評価
 - 外部折衝力
 - …「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は育たず」
- *格段に増えた職員室での会話

4. 校務改善第二弾～プロジェクトチーム「効率化推進がんばろうね委員会」立ち上げ～

- *基本的な考え方
 - 「子どもと向き合う時間の確保！」
 - …経営理念、経営計画の再確認
- *見直しの視点
 - 授業時間以外の時間の評価
 - 教員側の努力の洗い出し
 - …経営支援・時間の節約・業務内容の再考

*モチベーションの高揚

→トップ・ダウン（問題提起）とボトム・アップ（問題提起・解決策提案）

…課題の指摘と「これならできる」解決策

…問題解決型教師の誕生！

→「やってみよう！」

…一週間のテスト期間 やってみる勇気

5. 具体的な改善と効果

<役割分担の明確化>

- ① 教務事務を年度当初に全員に割り振り、部としての機能を分散させた。その結果、教務部としての会議時間を削減できた。全進行管理、調整は、教務主任の主幹教諭が行っており、年間を通じて支障なく運営されている。
- ② 都教委の経営支援部構想に基づき、校内の各分掌を経営支援の視点から再構成した。役割分担が明確になり、副校長の業務負担の軽減につながっていると見える。

<業務改善>

- ① 教育計画の再編をし、データ化することで紙ベースの教育計画をスリム化できた。来年度の紙ベースの教育計画は、ファイル形式にする予定である。
- ② 校内LANの活用により、職員会議資料の紙文書を減らし、印刷、配布の手間を省いた。会議時間の短縮にもなっている。
- ③ 毎月実施している土曜授業日の午後に、職員会議、三部会を設定することで、平日の放課後に会議を持たなくて済むようにした。放課後の時間確保ができた。
- ④ 従来その都度行っていた集金を年間予算立てして、保護者に指定銀行に一括納入してもらい、学期ごとに会計報告を出し、学年末に単年度会計で清算するようにした。集金の手間と会計事故のリスクが減った。
- ⑤ ファイルをリンクさせることによって、児童名簿から各種名簿が一度にできるようにした。一度児童名を入力すれば、転出入時の修正だけで6年間使用することができる。
- ⑥ あゆみ（通知表）を改編して、データ入力のみで作成できるようにした。作業時間の短縮になった。入力、出力ミスを無くすために、学年での読み合わせがより丁寧になった。
- ⑦ ファイルをリンクさせることによって、転出入児童の各種名簿が一度にできるようにした。連絡先等の漏れがなくなった。
- ⑧ あゆみ（通知表）とリンクさせ、指導要録抄本をデータ入力できるようにした。作業時間の短縮になった。
- ⑨ 月に一日、ノー残業デーを位置付けて、節電とともに心身のリフレッシュを啓発している。徐々にではあるが、意識が高まってきている。
- ⑩ ナレッジを共有化するために、ファイルフォルダーを再編し、データを集中した。

少しずつ今までのデータが共有できるようになってきている。作業時間の短縮が期待される。

- ⑪ 学校からの配布物、登校許可証等を学校HPにアップし、保護者が必要に応じて取得できるようにした。保護者からの再配布依頼が減った。
- ⑫ 従来、担任が集金、管理していた写真屋の集金をインターネット販売及び学校での掲示、業者による集金にした。業務が軽減し、会計事故のリスクがなくなった。

<資質向上>

- ① 主任教諭等をチーフとしたゼミ形式で、校内研究とは別に年間を通して、授業研究を行っている。1チーム5～6名の異年齢集団を形成することで、学習指導力以外のOJTも日常的に行われるようになっている。

<その他>

- ① 放課後の時間を確保するために、生活時程の見直しをした。その結果、6校時終了を14時50分とすることができた。以下に具体的な見直し事項をあげる。
 - ・朝会を挨拶だけとし、朝清掃にして午後の時程を繰り上げることができた。
 - ・朝会での連絡事項は、職員室背面黒板への掲示物とした。また、それ以外は夕会時の連絡とした。
 - ・月一回の土曜授業日の午後に会議を集中させ、平日の月、火、木、金の放課後は会議を設定しないようにした。児童との触れ合い、教材研究、自主研修、学年会等に時間を使えるようになった。
 - ・全校朝会、児童集会を水曜日にし、隔週配置とした。月、火、木、金曜日の生活時程を変えないで済むので、放課後の時間確保がしやすくなった。
 - ・生活時程の見直しにより、放課後の時間を確保できるようになったため、月一回「ノー残業デー」を行事計画に設定できるようになった。
 - ・改善にあたっては、トライアル期間を設け、検証、実証してからの実施とした。これにより、あらかじめ予想される課題に対応できている。

◎さいごに

「くにごメソッド」とは、先行研究をもとに、理科・生活科教育における問題解決の過程を再構築した本校独自の指導モデルです。「くにごメソッド」の最大の効果は、学校としての一貫した指導モデルを確立することで、学級ごと、学年ごとの指導のぶれをなくし、教師の進むべき方向を示したことです。そして、理科・生活科の一貫した指導法を共有することで、他の場面でも学校として一貫した指導・思考ができるようになりました。学習指導、生活指導、そして、本校の培ってきた「若者を自前で教育する」校風、そのすべての面で「くにごメソッド」が「安定と推進」をもたらしてくれたと言っても過言ではありません。本校の校務改善は、そのような中で実践されています。